

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：五島 誠

<p>実施場所：日本青年館ホテル</p>	<p>実施日：令和4年10月17日・18日</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 第27回清溪セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 今あらためて地方創生を考える ・講演 徳島県神山町 人口5000人の小さな町はなぜ進化し続けるのか ・講演 地方創生 議会と自治体が果たすべき役割 ・講演 民学産公官の協働によるコミュニティ創生とDX化の課題 ・講演 さらに業績が向上する働き方改革の方法とは ・講演 若者が声を届け、その声が響く社会を目指して 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金はそれを目的に事業を行ってしまう恐れがあり、麻薬と同じであるという意見がある。 ・関係人口を求めるのが目的ではなく、結果的に関係人口の増加につながる施策が望ましい。働き方や働く場所の自由度を高め、地方に高度な職を呼びこむとともに、新たなサービスを生み出し、観光などとの連携によって地域外から適度な外貨を取り込み、地域内経済の循環による自発的発展をはかる地方創生。 ・真に有効な少子化対策とは、一人目が生まれた時に夫が家事・育児に参画しないと第二子が生まれていない。つまり男性の働き方改革・男性育休が重要。他国では労働時間の上限とインターバル法制化が功を奏した。 ・人口オーナス期に経済発展しやすい働き方。①なるべく男女ともに働く②なるべく短時間で働く③なるべく違う条件の人をそろえる ・睡眠不足の上司ほど部下に侮辱的な言葉を使う。 ・平均睡眠時間と国民一人当たりGDPが相関 ・高い生産性は「有能な人材」「リーダーシップ」などが要因ではなく「心理的安全性」が高い環境が整備されていることが要因。 ・働き方改革を進める手順①女性の積極採用②休業・時短を経て継続就業できる制度整備③長時間残業の是正④評価の見直し「成果主義」の定義修正 ①⇒④ではなく④⇒①と取り組むことが重要。管理職が腹落ちして自発的に発信できるか否かが鍵。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>①管理職に「心理的安全性マネジメント研修」必修化。②全管理職に360度評価を実施。本人にフィードバック。③評価の中に「生産性評価ポイント」を入れる。④「できればリアルで来て」をやめさせる。言わない。職員に本気のテレワーク。BCP&真水の勤務時間最大化。⑤20時～7時は役所・学校・議会をインターバル義務化。⑥男性育休100%取得。⑦付箋等を用いて無記名で各職場の働き方改革の意見出し。⑧議会も巻き込んで、働き方を変える意識改革講演会。⑨地域の企業に「インターバル」「働き方改革」奨励独自策を。⑩組織成長のため、ダイバーシティ達成目標の策定と実行。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 國利 知史

実施場所：東京都新宿区霞ヶ丘町 4-1 日本青年館ホテル	実施日：令和4年10月17日～18日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 「住民主体の地方自治を進めるために」というテーマでの研修であった。 自治振興区を中心に「市民が主役のまちづくり」を進める庄原市において参考とすべき講義が多いことから受講を決めた。	
■参考とすべき事項 講師：石破茂衆議院議員「今あらためて地方創生を考える」 石破氏の出身地、鳥取県の現状を踏まえての講義であった。地域経済分析システム（リーサス）を活用しながらの施策。十勝交通などの地域交通の成功事例。ヨーロッパでの鉄道環境を踏まえての日本の鉄道の現状、JRの必要性について。 講師：大南信也氏「人口5000人のまちはなぜ進化し続けるのか」 徳島県神山町の成功事例を基に「住民主導で行う地域創生」を考える講義であった。移住者が移住者を呼び、アートによるまちづくりから始まり、少しずつ出来ることから、発展させていった。多様な国や職種の移住者を受け入れることで街の形が少しずつ出来上がり、それに必要な施設が出来てきた。現在は「神山なんでも高専」を設立するための準備を進めている。 講師：木下斉氏「地方創生 議会と自治体が果たすべき役割」 稼ぐまちづくりに関して、ただイベントをやるだけでは意味が無い。イベントを行うための補助金は意味が無い。補助金は麻薬である。補助金に頼らない稼ぐまちづくりについて。百人の合意を得ることより一人の覚悟が必要であり、地域創生には推進力のある人材を育てることが最も必要である。自治体はコンサルに丸投げしてはならない。地域課題は取り組みやすいところ、簡単などころから行う。 講師：小室淑恵「結婚、出産数が増加！残業や離職率は減少！さらに行政が向上する働き方改革とは」 少子化が進む現代において、女性職員が出産しやすい環境を整えること、社会復帰しやすいような働き方や勤務環境を整えることはもちろん重要であるが、男性の育児休暇取得などの環境整備が最も重要である。出産後すぐに男性が子育てに関わる率が高いほど離婚率は低い。ライフワークバランスを整えることで、日常生活や仕事の質を高めることができ、効率的な仕事出来る。仕事の効率が良くなると、残業が減り、残業が削減された起業は業績も上がっていることを実例を基に学んだ。	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

石破茂衆議院議員「今あらためて地方創生を考える」では、鳥取県出身議員ということで、地方目線の講義だった。子どものうちから地元の素晴らしさを学んでおかなければならない。地元から都会に出ても、そこで学び、その学びをどうすれば故郷に活かせるのかを考えられる人材を育てなければならないことを学んだ。本市においては地域の子どもは地域で育て、故郷の素晴らしさを教える必要があると感じた。

大南信也氏「人口 5000 人のまちはなぜ進化し続けるのか」の講義では、人口減少を止めることは難しいが緩やかにすることはできる。「創造的過疎」という言葉が印象的であった。人口減少の中身を変えていく必要があると感じた。始めは1件の移住から、移住者が移住者を呼ぶサイクルを作る必要がある。そのためには町の人々の意識改革、移住者を受け入れる体制づくりが必要である。本市はまずは住民の意識改革が必要で、日本人のみならず、外国人も快く受け入れる土壌作りが必要である。また様々な職種を受け入れることで多様性を生み、魅力あるまちづくりが可能であると感じた。本市においては、移住してこられる方が、事業を始めやすいように最大限のサポートをする必要があると感じた。

木下斉氏「地方創生 議会と自治体が果たすべき役割」講義では補助金のあり方や、地域課題への取り組みには取り組みやすいところから行うべきと学んだ。本市においては、補助金を取るための事業を考えるのではなく、補助金に頼らずとも自分たちで、稼いでいくためには何をしなければならぬかをまずは考えていかなければならないと感じた。また、地方創生には思いの強い人を中心に、仲間を増やしながら着実に少しずつ事業を進めていくことが必要と感じた。そのための人材確保や人材育成にも取り組んで行かなければならないと感じた。

講師：小室淑恵「結婚、出産数が増加！残業や離職率は減少！さらに行政が向上する働き方改革とは」の講義では、これからの時代はライフワークバランスを重視し、生活と仕事のバランスを取ることが重要である。今後は本市も働き方改革を進めて行くことが必要と感じるが、女性の産休後の職場復帰ももちろんだが、男性の育児休暇の取得の割合を向上させていくことも必要である。また、残業を削減することは業務効率や業績を高めることが、事例報告からも明らかになっており、本市においても業務の見直しや効率的に仕事が行えるように勇気を持って変えていくことも必要であると感じた。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者：林 高正

実施場所：東京都 日本青年館ホテル 第27回清溪セミナー（オンライン）	実施日：令和4年10月17日～18日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 今回は都合により東京に行けないので、オンラインでの受講となりました。今回のセミナー講師陣も多士済々ですが、これまで一度も講演を聞いたことがない、「石破茂氏」の講演には期待しています。彼は地方創生大臣として全国を駆け巡っておられましたので、彼の考える地方創生論とはどんなものか、本当に地方は変わったのか、その辺りを聞かせていただきましょう。	
■参考とすべき事項 目的の欄で書かせていただいた石破氏の講演ですが、やはり国政を担う国会議員ですから、申し訳ないけど期待外れでした。本当の意味での住民主体の地方政治というお話ではなかったように思います。その点、徳島県神山町の大南信也氏の講演は良かったですね。仲間と神山で実践してこられたこととお話される訳で、人口5000人の小さな町がどうやって変わっていったのか、要は、やるかやらないかですが、問題は、そのやり方にあります。思いつきでやるのではなく、仲間とビジョンを共有することです。自分一人で走るのではなく、大元は大南さんだけど、それぞれの役割分担がキッチリとできているということだと感じました。2日目は女性講師陣だったのですが、ワーク・ライフバランスの小室淑恵氏の考え方は、労働生産性をあげるための分析が独特であり、正に働き方改革だなと頷きました。詳しくは彼女の著書をお読みななることをお勧めします。最後の講師であった能條桃子氏の講演には、「こんな若者がいたのか」と驚きました。どうして若者が選挙に行かないのか、どうして政治に興味がないのか、やる気のない国の制度、地方の制度について鋭く切り込んでいる彼女は将来のジャンヌダルクかなと思いました。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 私は今回、オンライン受講だったのですが、会場に出向いて行くことを考えると、非常に合理的で経済的負担も少なく、オンライン有だなと思いました。これはただ、講義を聞くということだけを考えた場合の個人的感想ではありますが、議会、会派等での取組を考えるのも一考と思います。 コロナ禍により色々な活動が制限を受ける中、出来ることをやるということの大切さを今回のセミナーで実感しました。集合形式のセミナーはできないではなく、集まれる人は集まり、集まれない人は地元でオンライン受講するという、選択肢を増やすという努力。私がこれまでオンラインに対して否定的な考えを持っていたのは事実ですが、これからは、ケースバイケースで取組んでいけばと思います。当然ながら、執行機関においても、オンラインでの会議等に取組まれることを提言するものです。これまで何度も災害時の対応について議論されてきていますが、オンラインは必須アイテムとなっています。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 徳永 泰臣

<p>実施場所：東京都日本青年館ホテル</p>	<p>実施日：令和4年10月17～18日</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 「住民主体の他方自治を進める」と題しての、第27回清溪セミナーを2日間受講した。 講師は、石破 茂(衆議院議員) 大南 信也(神山まるごと高専代表理事) 大下 斉(エリア・イノベーション・アライアンス代表理事) 清原 慶子(前三鷹市長) 小室 淑恵(㈱ワーク・ライスバランス社長) 能條 桃子(no youth no JAPAN 代表理事)</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○徳島県神山町生まれの大南信也。彼は神山町に生まれ、米国スタンフォード大学院を修了され、地元に戻り1991年に青い目の人形「アリス」の64年ぶりの米国への里帰りを実現。それをきっかけに人と人の繋がりが出来て、そこから全国初となる「アドプトプログラム」実施や「神山アーティスト・イン・レジデンス」を相次いで始動。「サテライトオフィス」の先駆けであり、移住定住はもとより現在は神山まるごと高専設立に向け準備されている。</p> <p>○大南氏はクリエイティブに過疎化をさせる「創造的過疎」を持論に、多様な人が集う「せかいのかみやま」づくりを進めておられる。 若いころシリコンバレーで暮らし、多様な経験を積み、それを地元を持ち帰り世界の神山に育てられた。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>○神山町はアーティストにしてもサテライトオフィスにしても、ソフトの面を先行されており、その先に、それを実現するためにハード面をやっていくと言った姿勢である。</p> <p>○庄原市は先にサテライトオフィスを造って、企業を探すといったやり方であり、その結果、サテライトオフィスを造っても入居する企業はいないといった現状である。</p> <p>○その辺をもう少し考え、調べられてから造られた方が良かったのではないかと思う。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。